

1-5 交通

1-5-1 鉄道

■市内の鉄道駅利用者数は、弘南鉄道の平賀駅が最も多い

■碓ヶ関駅の年間利用者数は、平成26年度(2014年度)以降減少傾向にある

○鉄道駅の年間利用者数は、弘南鉄道の平賀駅が最も多く、令和5年度(2023年度)で135,808人/年となっている。

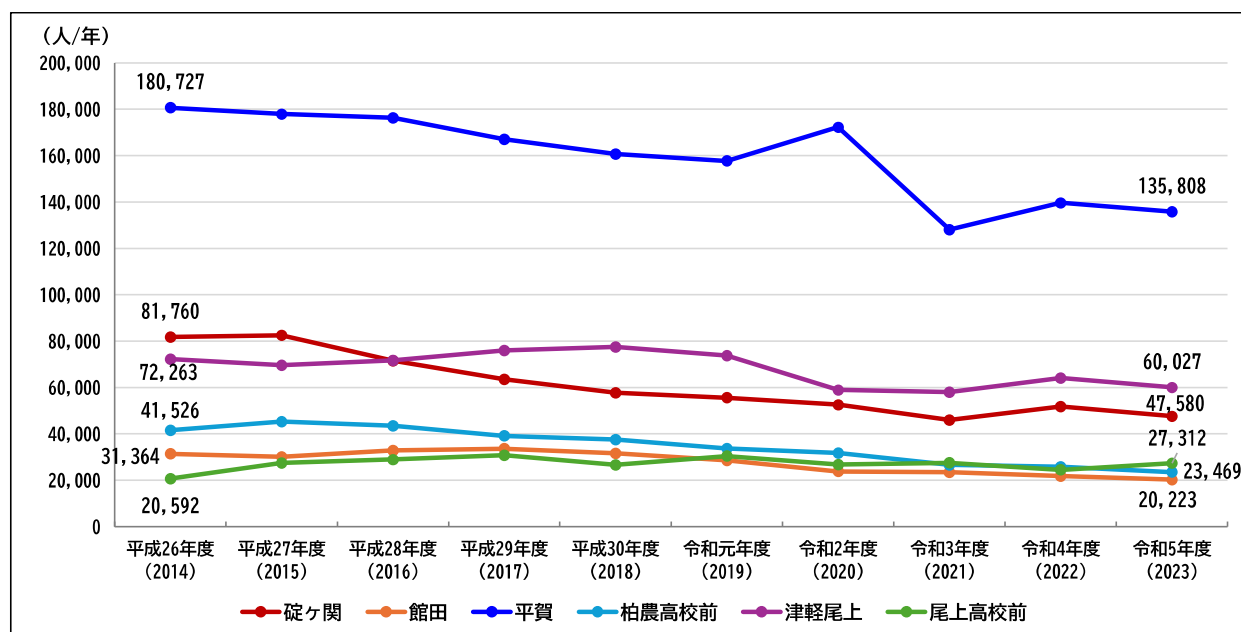
○JR 碓ヶ関駅の利用者数は減少傾向にあり、令和5年度(2023年度)で47,580人/年となっている。

図表 鉄道駅の年間利用者数の推移

単位：人／年

路線名	駅名	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
JR奥羽本線	碓ヶ関	81,760	82,490	71,540	63,510	57,670	55,632	52,560	45,990	51,830	47,580
	津軽湯の沢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	81,760	82,490	71,540	63,510	57,670	55,632	52,560	45,990	51,830	47,580
弘南鉄道	館田	31,364	30,035	32,828	33,606	31,602	28,596	23,775	23,422	21,748	20,223
	平賀	180,727	177,946	176,285	167,083	160,688	157,752	172,250	128,094	139,629	135,808
	柏農高校前	41,526	45,240	43,419	39,166	37,551	33,673	31,725	26,694	25,773	23,469
	津軽尾上	72,263	69,609	71,724	75,966	77,493	73,774	58,917	57,984	64,078	60,027
	尾上高校前	20,592	27,436	28,870	30,776	26,638	30,438	26,759	27,547	24,501	27,312
	計	346,472	350,266	353,126	346,597	333,972	324,233	313,426	263,741	275,729	266,839

資料：JR 東日本、弘南鉄道株式会社



1-5-2 バス

- バス交通は民間路線バス、市の碓ヶ関・平賀線バス等が運行している
- 新たなデマンド交通「のらっさ」が令和6年12月より運行している

○市内のバス交通は、民間路線バス、公営路線バスをあわせ4路線が運行している。

○乗降客総数(日平均)は弘前～黒石線が113人/日で最も多くなっている。

○運行頻度(平日)においても、弘前～黒石線が12本/日で最も多くなっている。

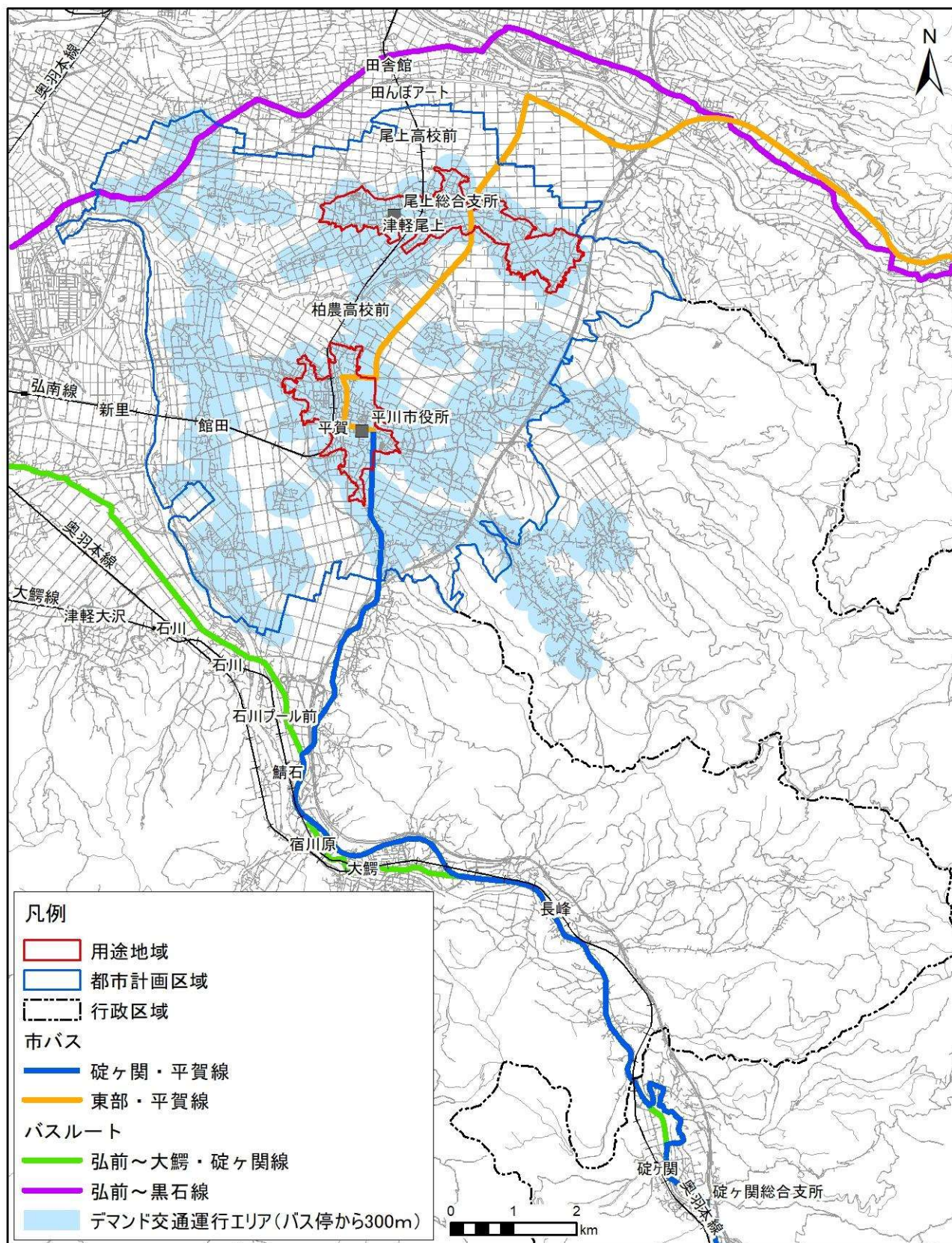
○令和6年12月より、デマンド交通「のらっさ」が、平賀地域(東部地区を除く)及び尾上地域を対象に運行している。

表 バスの乗降客数・運行状況

区分	事業者名	路線名	乗降客総数 (日平均)	運行頻度 (平日)
路線バス (民間)	弘南バス(株)	弘前～黒石線	113	12/日
		板留～南高校線	-	1/日
その他	平川市	碓ヶ関・平賀線	-	5/日
		東部・平賀線(予約型乗り合いタクシー)	-	4/日

出典：令和4年度都市計画基礎調査より作成

図 バス運行路線



出典：令和4年度都市計画基礎調査、平川市HP資料より作成

1-5-3 通勤通学

- 通勤、通学ともに流出超過している
- 弘前市とのつながりが強い傾向にある
- 通勤の流出入率が増加傾向にある

- 令和2年(2020年)の通勤による流出者数は7,269人、流入者数は4,608人であり、流出超過している。流出先は弘前市が最も多く4,595人、次いで黒石市が1,278人となっている。流入元は弘前市が最も多く2,228人、次いで黒石市が1,107人となっている。
- 令和2年(2020年)の通学による流出者数は974人、流入者数は326人であり、流出超過となっている。流出先は弘前市が最も多く735人、次いで黒石市が119人となっている。流入元は弘前市が最も多く153人、次いで黒石市が111人となっている。

表 流出流入の状況(通勤)

	常住地による就業者数 (人)	流出		従業地による就業者数 (人)	流入		従業地/ 常住地就業者比率 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
平成22年 (2010年)	17,185	6,908	40.2	14,641	4,364	29.8	85.2
平成27年 (2015年)	16,331	7,161	43.8	13,512	4,338	32.1	82.7
令和2年 (2020年)	15,866	7,269	45.8	13,217	4,608	34.9	83.3

	通勤流出先					
	流出率第1位			流出率第2位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成22年 (2010年)	弘前市	4,393	25.6	黒石市	1,160	6.8
平成27年 (2015年)	弘前市	4,581	28.1	黒石市	1,223	7.5
令和2年 (2020年)	弘前市	4,595	29.0	黒石市	1,278	8.1

	通勤流入元					
	流入率第1位			流入率第2位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成22年 (2010年)	弘前市	2,098	14.3	黒石市	1,020	7.0
平成27年 (2015年)	弘前市	2,043	15.1	黒石市	1,079	8.0
令和2年 (2020年)	弘前市	2,228	16.9	黒石市	1,107	8.4

出典：令和4年度都市計画基礎調査

表 流出流入の状況(通学)

	常住地による通学者数 (人)	流出		従業地による通学者数(人)	流入		従業地/ 常住地通学者比率 (%)
		通学者数 (人)	流出率 (%)		通学者数 (人)	流入率 (%)	
平成 22 年 (2010 年)	1,608	1,154	71.8	902	448	49.7	56.1
平成 27 年 (2015 年)	1,495	1,055	70.6	786	346	44.0	52.6
令和 2 年 (2020 年)	1,295	974	75.2	655	326	49.8	50.6

	通学流出先					
	流出率第 1 位			流出率第 2 位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
平成 22 年 (2010 年)	弘前市	882	54.9	黒石市	179	11.1
平成 27 年 (2015 年)	弘前市	753	50.4	黒石市	178	11.9
令和 2 年 (2020 年)	弘前市	735	56.8	黒石市	119	9.2

	通学流入元					
	流入率第 1 位			流入率第 2 位		
	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成 22 年 (2010 年)	弘前市	190	21.1	黒石市	176	19.5
平成 27 年 (2015 年)	弘前市	164	20.9	黒石市	117	14.9
令和 2 年 (2020 年)	弘前市	153	23.4	黒石市	111	16.9

出典：令和 4 年度都市計画基礎調査

1-6 地価

1-6-1 地価の状況

■市内の地価は高い箇所では 23,800 円/㎡となっている

○用途地域内の商業地の地価は、最も高い箇所では 23,800 円/㎡、最も低い箇所では 13,800 円/㎡となっている。

○用途地域内の住宅地の地価は、最も高い箇所では 13,100 円/㎡、最も低い箇所では 8,000 円/㎡となっている。

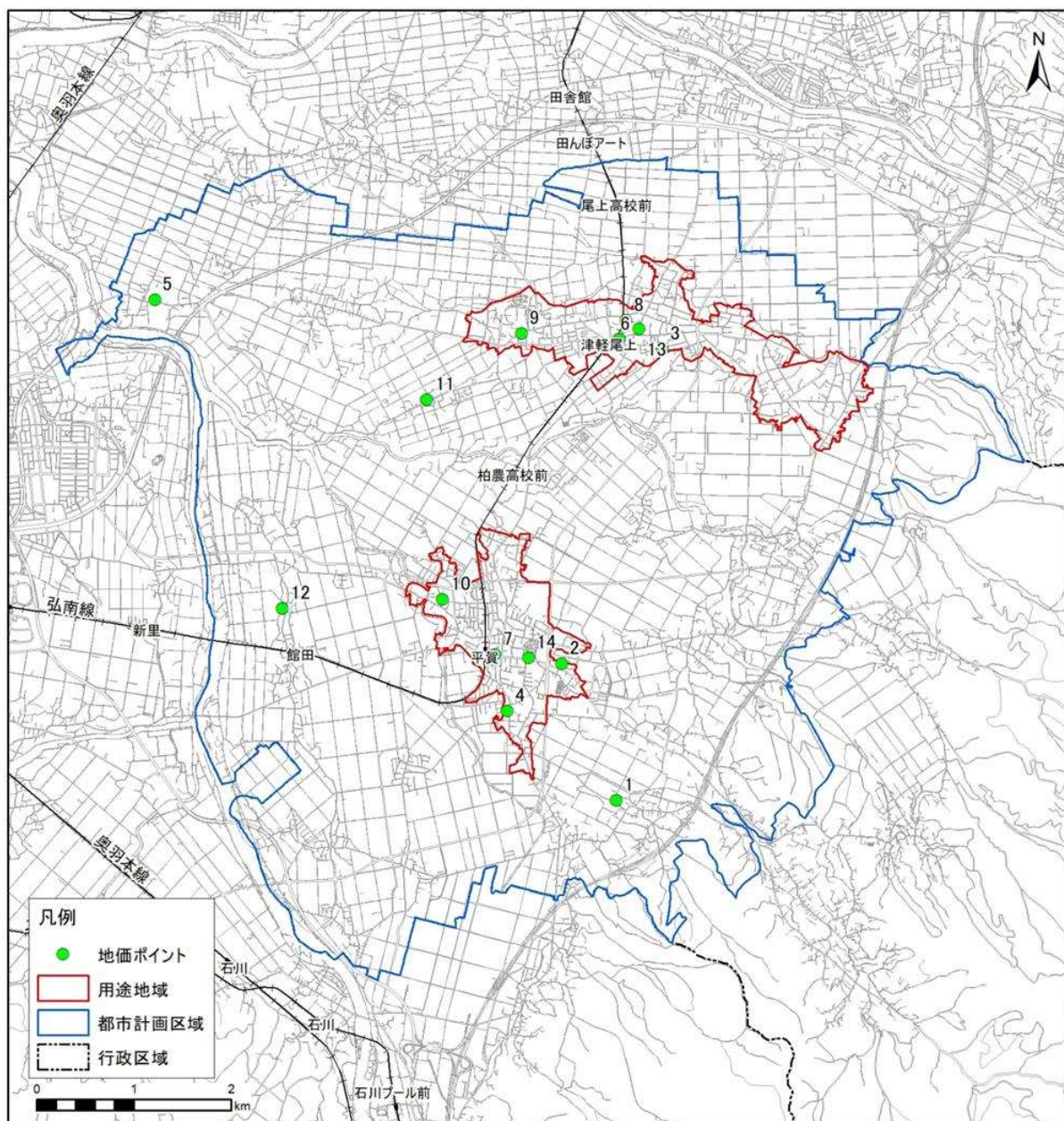
○用途地域外の宅地では、5,000 円台/㎡から 7,000 円台/㎡となっている。

表 地価の状況

位置 番号	地点	用途	地価価格 (円/㎡)	備考
1	沖館長田 107 番 1 外	市街化調整区域内の宅地	5,650	公示地価価格
2	新館野木和 4 番 34	住宅地	13,100	公示地価価格
3	尾上栄松 306 番	住宅地	11,200	公示地価価格
4	柏木町柳田 123 番	住宅地	12,100	公示地価価格
5	日沼高田 161 番 1	市街化調整区域内の宅地	6,450	公示地価価格
6	中佐渡南田 16 番 7 外	商業地	14,100	公示地価価格
7	本町北柳田 20 番 53 外	商業地	23,800	公示地価価格
8	原大野 17 番 1	住宅地	12,600	県地価調査結果
9	猿賀遠林 89 番	住宅地	8,000	県地価調査結果
10	大光寺一滝本 67 番 2 外	住宅地	8,400	県地価調査結果
11	長田野田 117 番 1	市街化調整区域内の宅地	5,300	県地価調査結果
12	苗生松元東田 24 番 1	市街化調整区域内の宅地	7,300	県地価調査結果
13	尾上栄松 61 番 2	商業地	13,800	県地価調査結果
14	柏木町藤山 25 番 9 外	商業地	19,400	県地価調査結果

出典：令和 4 年度都市計画基礎調査

図 地価ポイント分布図



出典：令和4年度都市計画基礎調査

※図中の番号は前ページの表の位置番号を示す

1-7 防災

1-7-1 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

■都市計画区域外を中心に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定がみられる

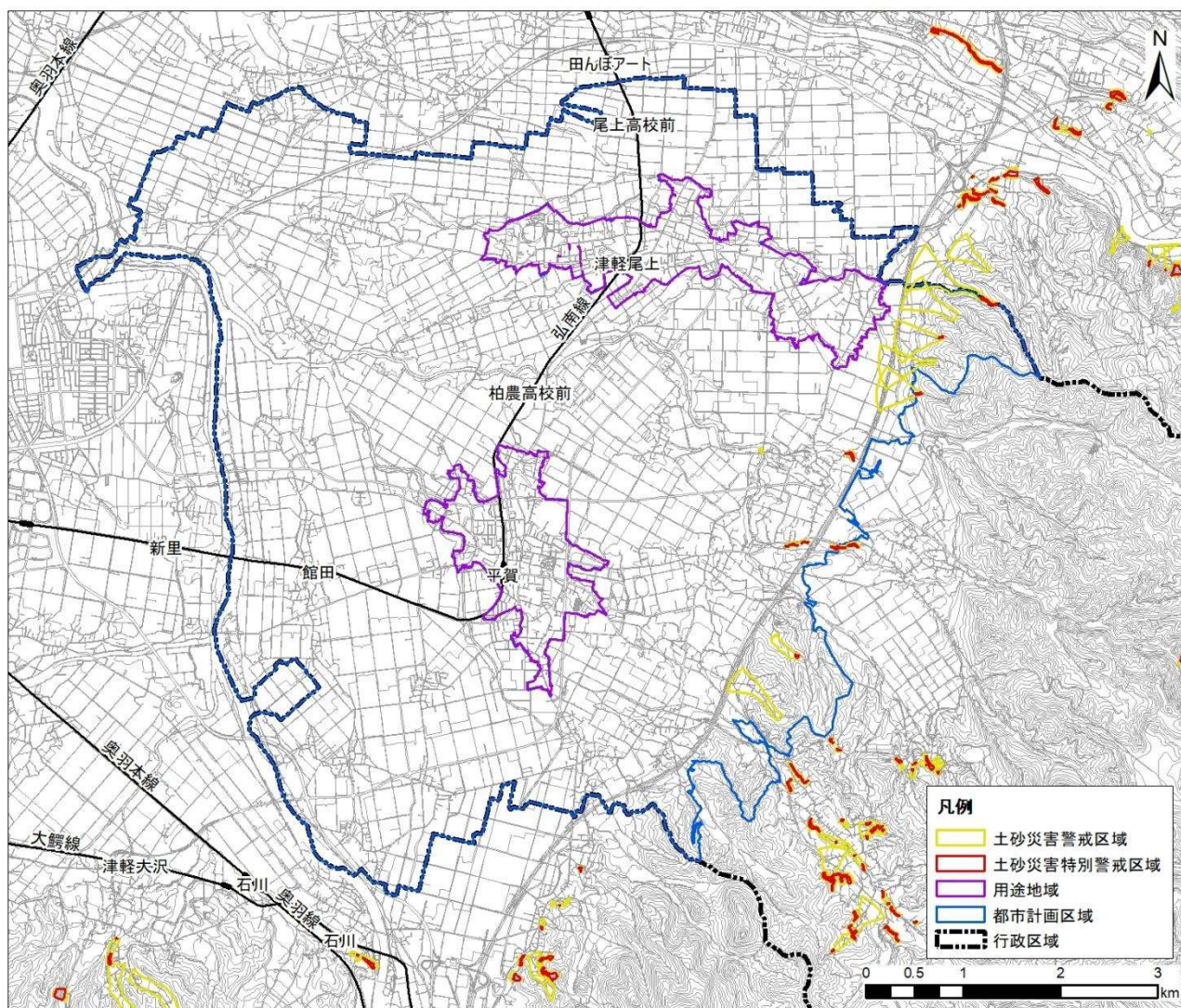
○碓ヶ関地域等、都市計画区域外を中心に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定がみられる。

○都市計画区域では、東側の一部に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定がみられる。

※土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

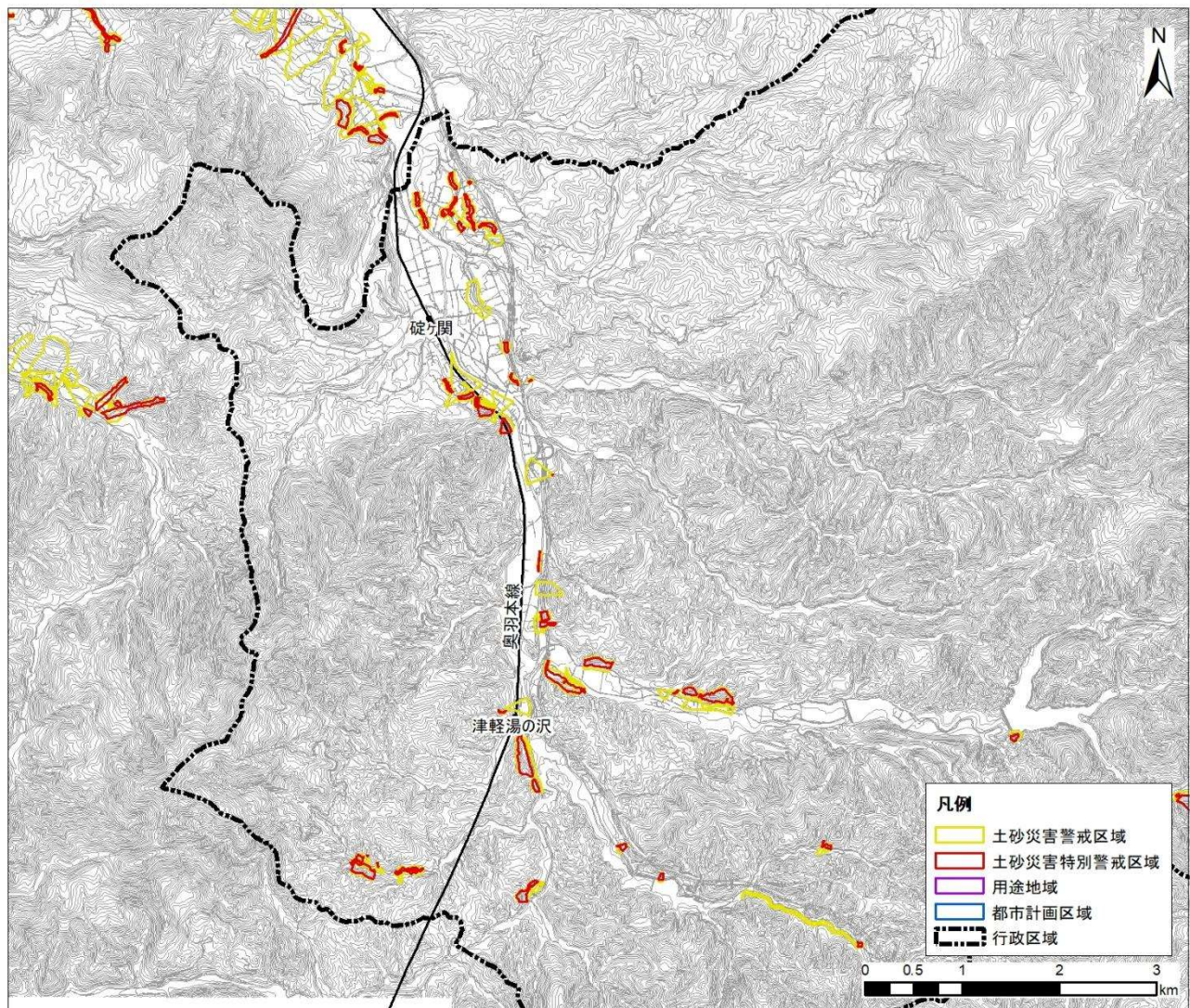
「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(土砂災害防止法)」に基づいて指定された土地の区域

図 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の分布状況〔平賀地域・尾上地域〕



出典：国土数値情報

図 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の分布状況〔碓ヶ関地域〕



出典：国土数値情報

1-7-2 洪水浸水想定区域

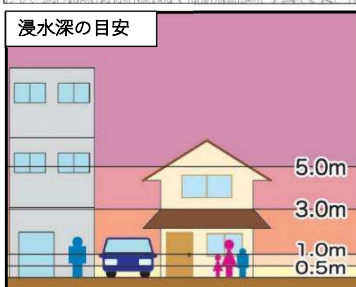
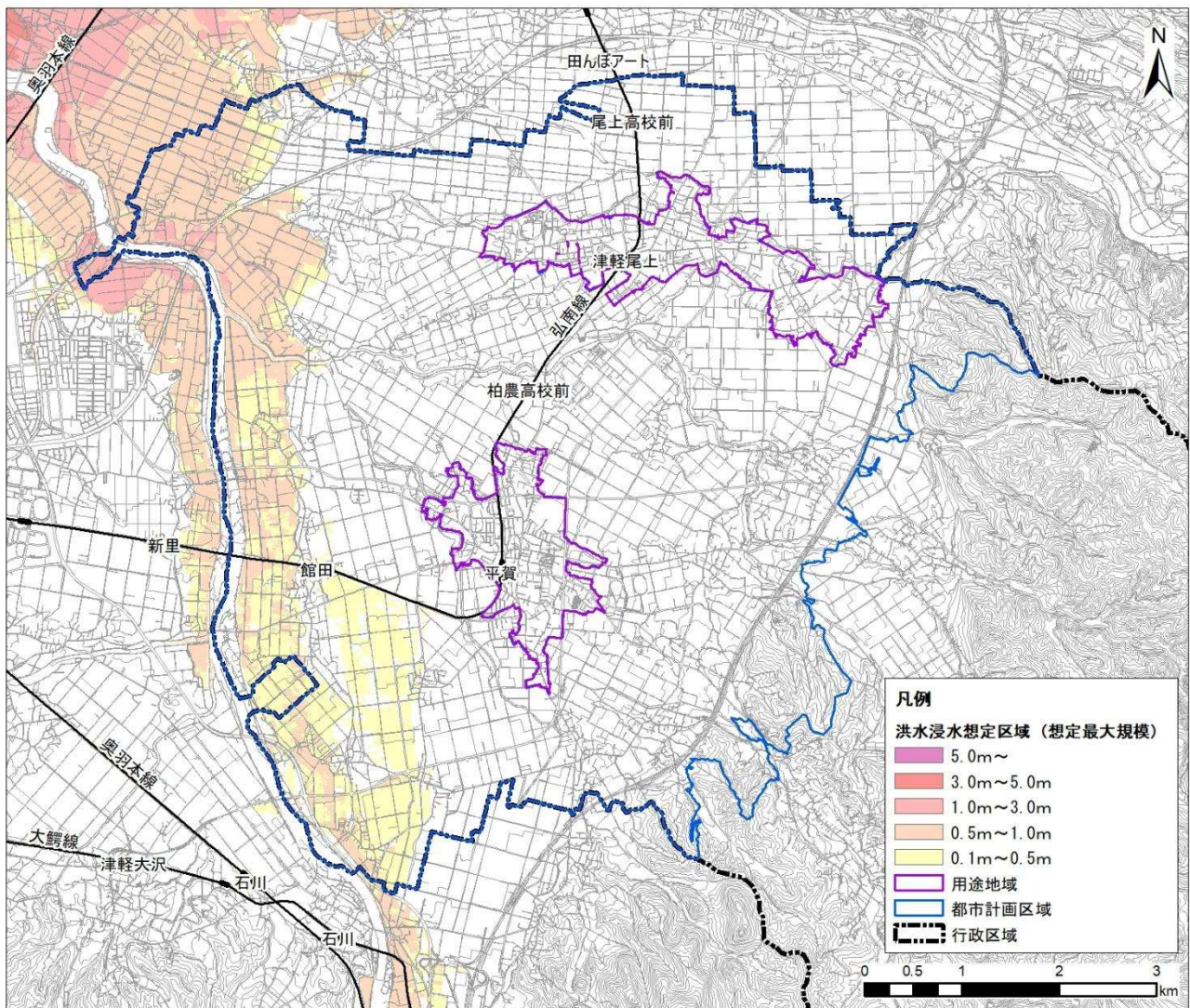
■平川沿いに洪水浸水想定区域が指定されている

○本市の西部を南北に流れる 1 級河川である平川について、洪水浸水想定区域(想定最大規模)が指定されており、想定最大規模の浸水深では、1.0m~3.0mの箇所もみられる。

※洪水浸水想定区域

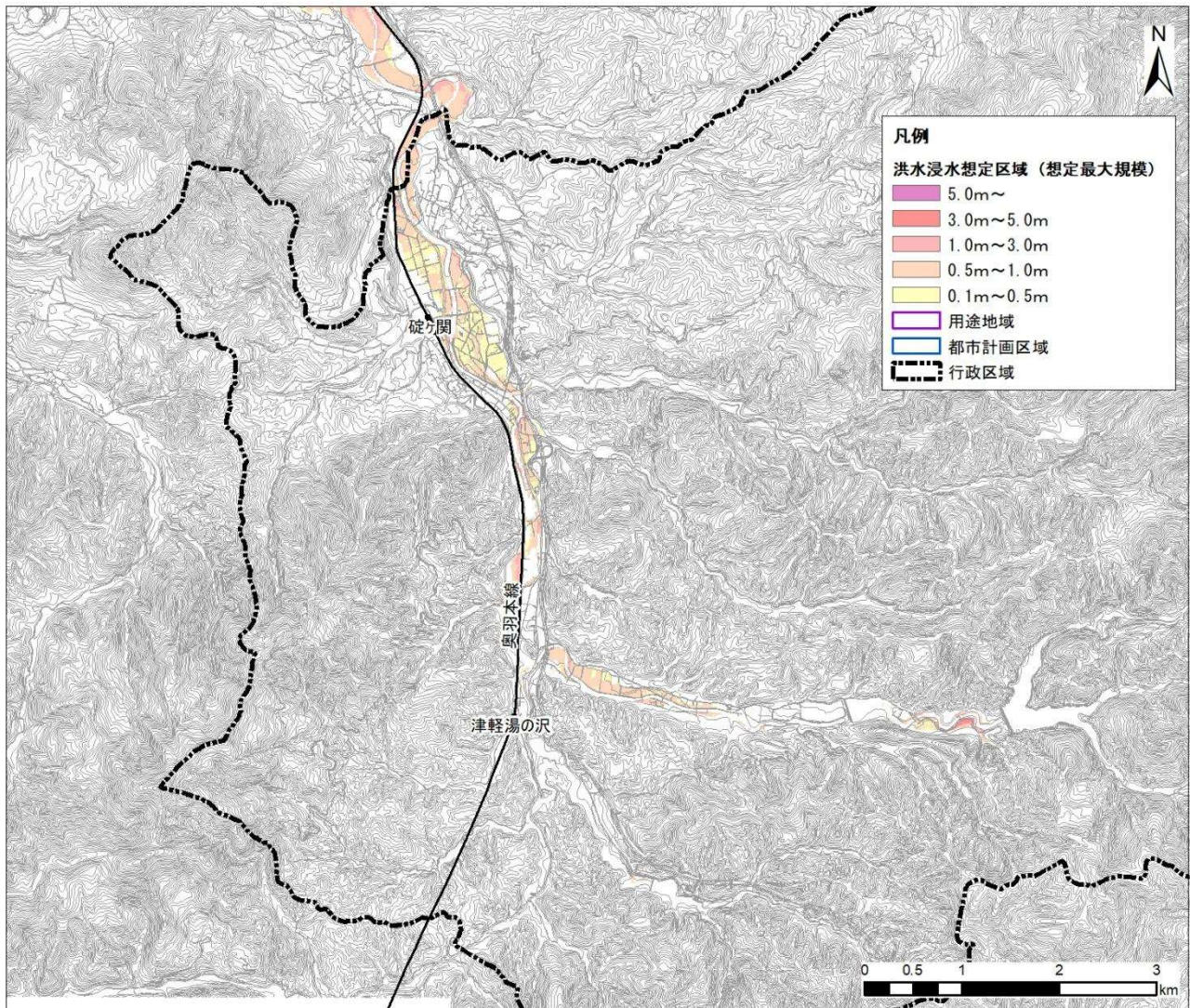
水防法第 14 条第 1 項の規定により、対象とする河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模(L2))〔平賀地域・尾上地域〕

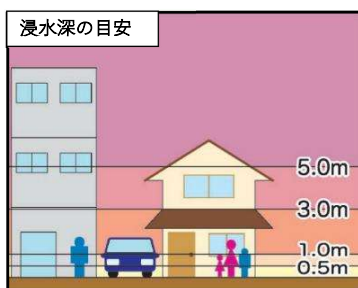


出典：青森県資料より作成

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模(L2))〔碓ヶ関地域〕



出典：青森県資料より作成



1-7-3 家屋倒壊等氾濫想定区域

■平川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されている

○本市の西部を南北に流れる1級河川である平川について、家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)が指定されている。

※家屋倒壊等氾濫想定区域

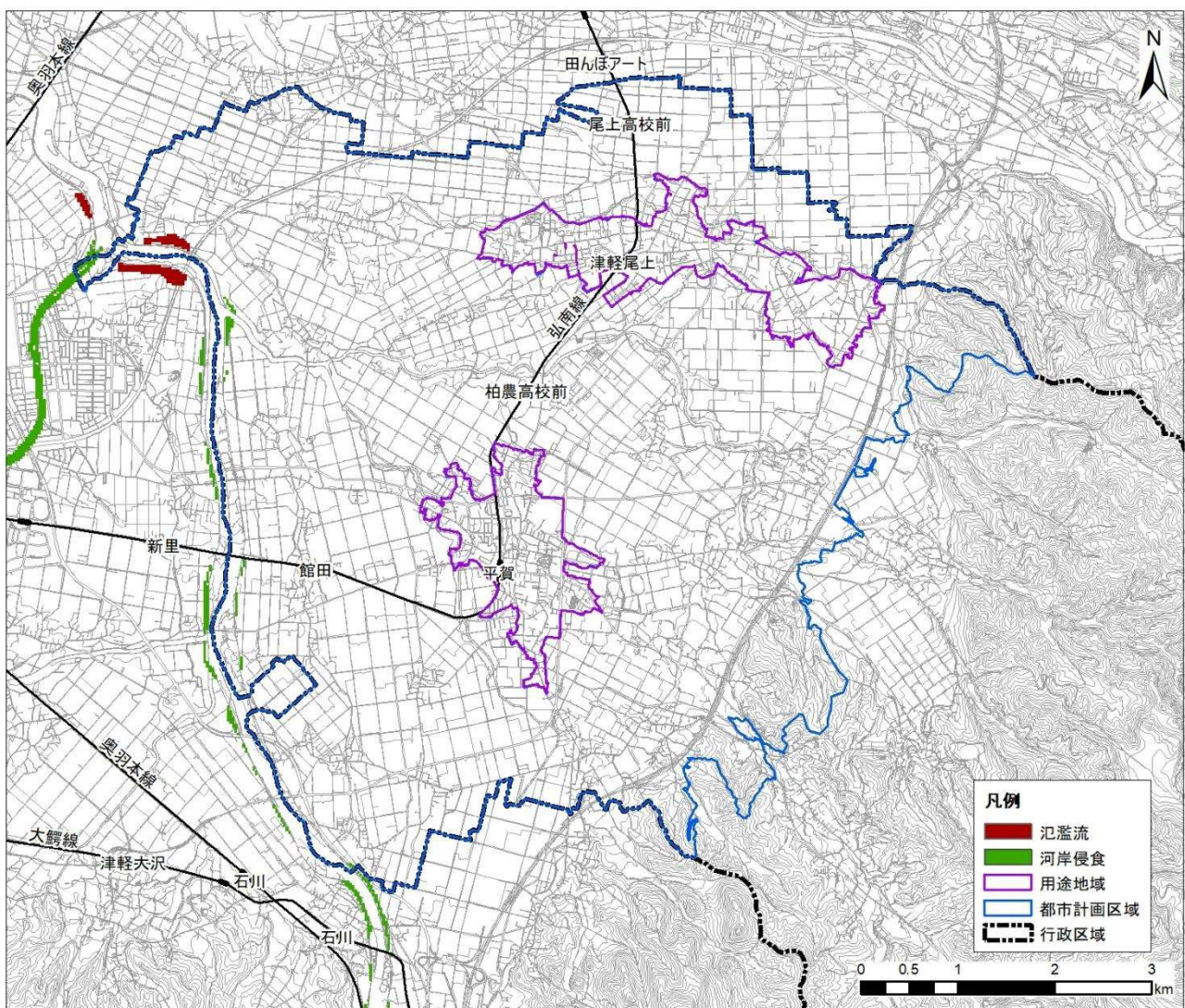
・家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)

河川堤防の決壊又は洪水氾濫流により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

・家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)

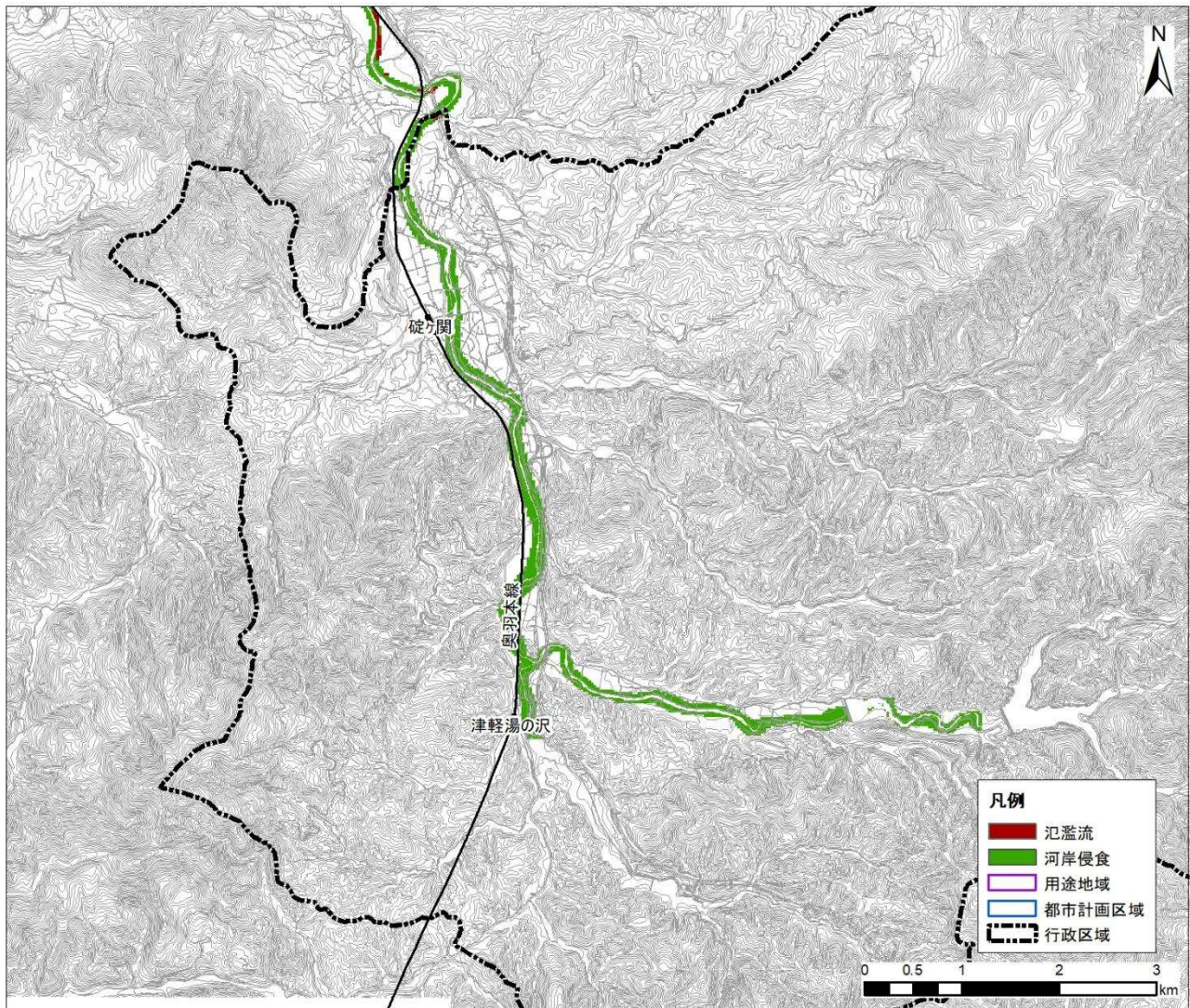
洪水時の河岸侵食により、木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域

図 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)〔平賀地域・尾上地域〕



出典：青森県資料より作成

図 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)〔碓ヶ関地域〕



出典：青森県資料より作成

1-7-4 指定避難所の状況

■都市計画区域内の指定避難所は、避難所と一時避難地が分布している

○都市計画区域内には避難所が 59 箇所、一時避難地が 19 箇所指定されている。

表 避難所・一時避難地

番号	地区名	名称	種別
1	大光寺地区	大光寺コミュニティセンター	避難所
2	光城団地地区	平川市文化センター	避難所
3	第二光城団地地区	光城コミュニティセンター	避難所
4	小和森地区	小和森多目的研修集会施設	避難所
5	小和森地区	中央公園	一時避難地
6	柏木町地区	柏木町コミュニティセンター	避難所
7	柏木町地区	平川市立柏木小学校グラウンド	一時避難地
8	金屋地区	金屋地区多目的研修施設	避難所
9	南田中地区	平川市立金田小学校	避難所
10	南田中地区	平川市立金田小学校グラウンド	一時避難地
11	南田中地区	B&G 尾上体育館	避難所
12	李平地区	李平町会センター	避難所
13	尾上地区	高木会館	避難所
14	南田地区	平川市立尾上中学校	避難所
15	上猿賀地区	平川市尾上地域福祉センター	避難所
16	上猿賀地区	さるか交流館	避難所
17	上猿賀地区	尾上南田会館	避難所
18	西猿賀地区	平川市尾上農村環境改善センター(さるか荘)	避難所
19	西猿賀地区	平川市ふるさとセンター	避難所
20	西猿賀地区	猿賀公園	一時避難地
21	みなみの地区	みなみの和み館	避難所
22	小和森上松岡地区	平成町コミュニティセンター	避難所
23	市街化調整区域	平川市立小和森小学校	避難所
24	市街化調整区域	平川市立小和森小学校グラウンド	一時避難地
25	市街化調整区域	平川市立平賀西中学校	避難所
26	市街化調整区域	平川市立平賀西中学校グラウンド	一時避難地
27	市街化調整区域	平川市立柏木小学校	避難所
28	市街化調整区域	平川市立平賀東中学校	避難所
29	市街化調整区域	平川市立平賀東中学校グラウンド	一時避難地
30	市街化調整区域	平川市立平賀東小学校	避難所
31	市街化調整区域	平川市立平賀東小学校グラウンド	一時避難地
32	市街化調整区域	平川市立竹館小学校	避難所
33	市街化調整区域	平川市立竹館小学校グラウンド	一時避難地
34	市街化調整区域	平川市立松崎小学校	避難所
35	市街化調整区域	平川市立松崎小学校グラウンド	一時避難地
36	市街化調整区域	平川市平賀農村環境改善センター	避難所
37	市街化調整区域	本町コミュニティセンター	避難所
38	市街化調整区域	荒田農業研修センター	避難所
39	市街化調整区域	平田森多目的集会所	避難所
40	市街化調整区域	平賀地区農村交流活性化施設(飛鳥会館)	避難所
41	市街化調整区域	新館集落センター	避難所
42	市街化調整区域	新屋多目的集会施設	避難所
43	市街化調整区域	松野地区集会所	避難所
44	市街化調整区域	向野町会集会所	避難所
45	市街化調整区域	沖館地区産地機能増進人材養成施設(鳥海会館)	避難所
46	市街化調整区域	向陽多目的研修集会施設	避難所
47	市街化調整区域	原田農業研修センター	避難所
48	市街化調整区域	岩館地区構造改善センター	避難所
49	市街化調整区域	大坊コミュニティセンター	避難所
50	市街化調整区域	石郷集会所	避難所
51	市街化調整区域	三町会農業研修センター	避難所
52	市街化調整区域	四ツ屋集会所	避難所

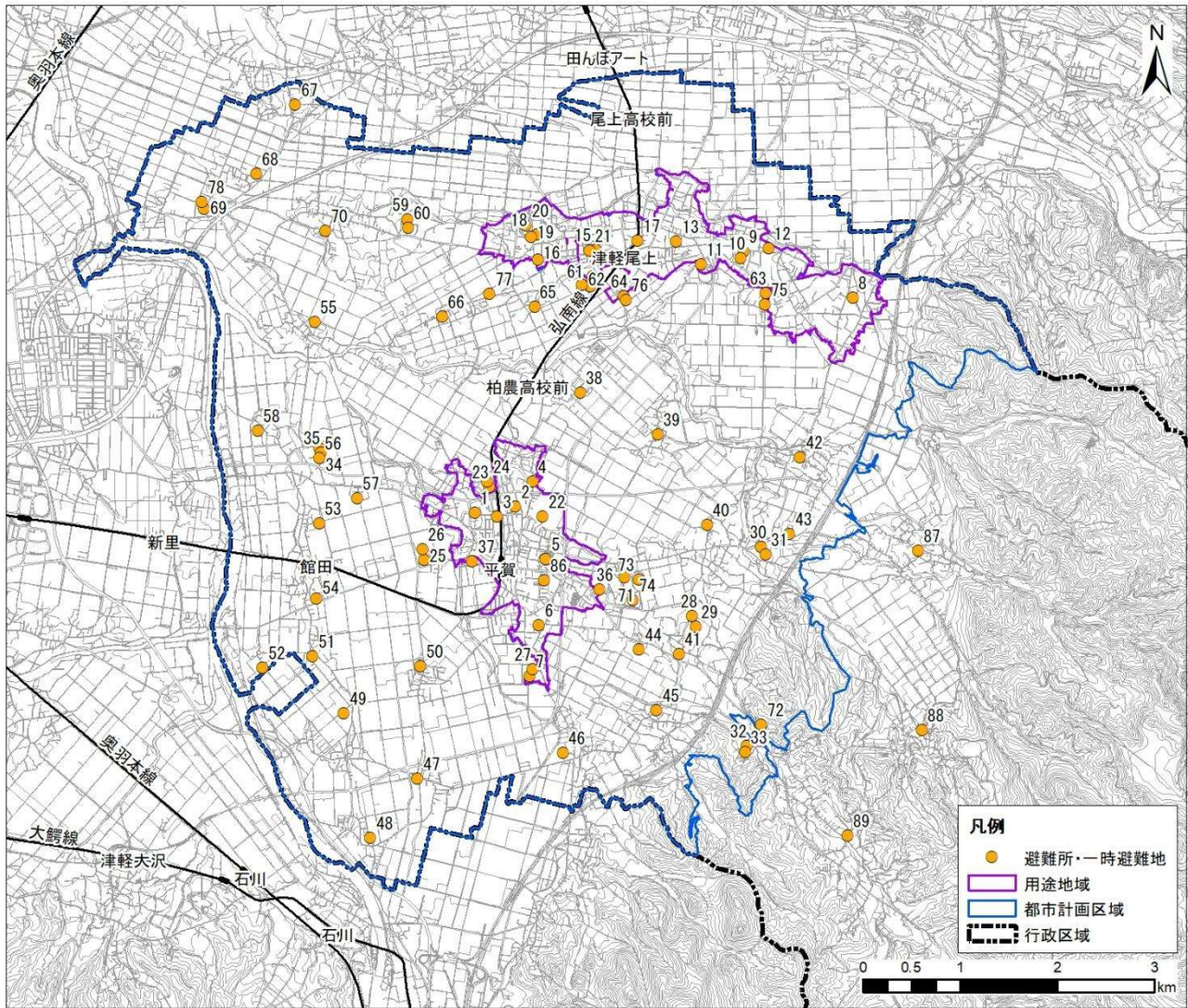
番号	地区名	名称	種別
53	市街化調整区域	苗生松多目的集会所	避難所
54	市街化調整区域	館田地区農業推進拠点施設	避難所
55	市街化調整区域	農村振興総合整備事業コミュニティ施設 (杉館ふれあいセンター)	避難所
56	市街化調整区域	館山松崎交流センター	避難所
57	市街化調整区域	西の平団地集会所	避難所
58	市街化調整区域	松館農業研修センター	避難所
59	市街化調整区域	平川市立猿賀小学校	避難所
60	市街化調整区域	平川市立猿賀小学校グラウンド	一時避難地
61	市街化調整区域	平川市立尾上中学校グラウンド	一時避難地
62	市街化調整区域	平川市尾上体育館	避難所
63	市街化調整区域	南田中ふれあいセンター	避難所
64	市街化調整区域	新屋町会館	避難所
65	市街化調整区域	中佐渡集落会館	避難所
66	市街化調整区域	長田地区担い手センター	避難所
67	市街化調整区域	新山ふれあいセンター	避難所
68	市街化調整区域	蒲田交流センター	避難所
69	市街化調整区域	日沼地区コミュニティ施設	避難所
70	市街化調整区域	八幡崎地区農業研修センター	避難所
71	市街化調整区域	ひらかわドリームアリーナ	避難所
72	市街化調整区域	ひらかわ市民の森	一時避難地
73	市街化調整区域	平川市陸上競技場	一時避難地
74	市街化調整区域	平賀多目的広場	一時避難地
75	市街化調整区域	南田中地区公園	一時避難地
76	市街化調整区域	新屋町地区農村公園	一時避難地
77	市街化調整区域	中佐渡地区農村公園	一時避難地
78	市街化調整区域	日沼地区農村公園	一時避難地
79	白地地域	旧平川市立葛川小中学校グラウンド	一時避難地
80	白地地域	切明コミュニティセンター	避難所
81	白地地域	一本木コミュニティセンター	避難所
82	白地地域	井戸沢集会所	避難所
83	白地地域	小国コミュニティセンター	避難所
84	白地地域	旧平川市立小国小中学校グラウンド	一時避難地
85	白地地域	大木平集会所	避難所
86	白地地域	平川市役所本庁舎(1階アヴェッサ)	避難所
87	白地地域	尾崎多目的研修集会施設	避難所
88	白地地域	広船地区構造改善センター	避難所
89	白地地域	唐竹多目的集会所	避難所
90	白地地域	久吉地区集会所	避難所
91	白地地域	久吉地区農村公園	一時避難地
92	白地地域	平川市立碓ヶ関小中学校	避難所
93	白地地域	平川市立碓ヶ関小中学校グラウンド	一時避難地
94	白地地域	平川市碓ヶ関地域福祉センター	避難所
95	白地地域	平川市碓ヶ関温泉会館	避難所
96	白地地域	平川市碓ヶ関公民館	避難所
97	白地地域	道の駅いかりがせき(屋内)	避難所
98	白地地域	道の駅いかりがせき(屋外)	一時避難地
99	白地地域	古懸不動尊境内	一時避難地
100	白地地域	古懸地区集会所	避難所

出典：令和4年度都市計画基礎調査、平川市防災マップより作成

※地区名は「令和4年度都市計画基礎調査」に準拠しています。

※種別の一時避難地について「平川市防災マップ」では「避難場所」としています。

図 指定避難所の分布



出典：令和4年度都市計画基礎調査、平川市防災マップより作成

1－8 地理的自然的条件の整理

1－8－1 位置・地勢

- 青森県南部、津軽平野の南端に位置している。
- 東は十和田市と秋田県小坂町、西は平川を隔てて弘前市、大鰐町と接し、北は青森市、黒石市、田舎館村、南は秋田県に接した錨型をなしている。
- 農業に適した肥沃な土壌の地質を持ち、水田地帯として利用される平坦地と、標高 20～300 メートルの丘陵地で水稲とりんごの複合経営地帯として活用されている台地、八甲田・十和田火山群の一部に属した山間地がある。
- 緑が多く、人々が快適な生活を送れる自然環境を保っており、四季の移り変わりが美しく、また、自然災害も比較的少なくなっている。
- 市の総面積は 346.01 km²で、県域の約 3.6%を占めている。